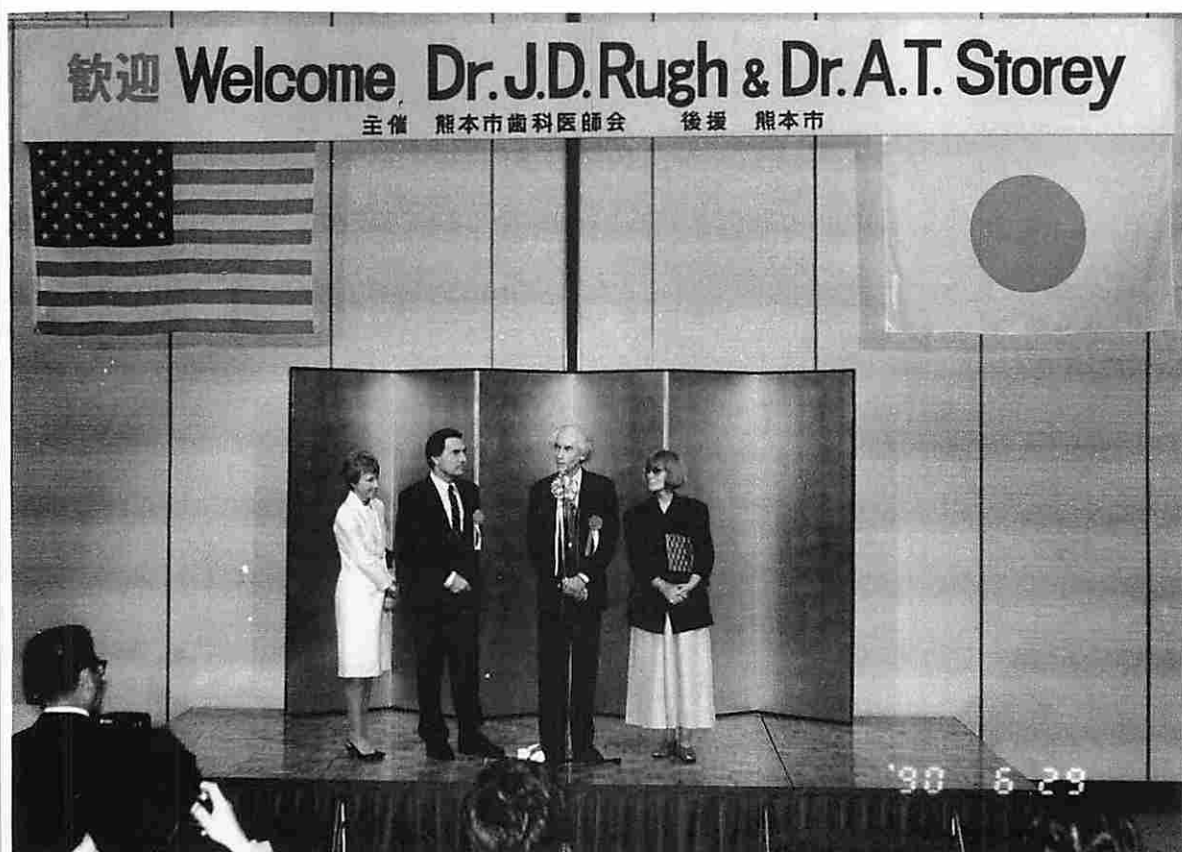


中 岳



熊本市歯科医師会会誌

第 70 号

サンアントニオ市テキサス大学
Dr.ルー、Dr.ストーリー来熊！

第14回バレーボール大会

目 次

サンアントニオ市テキサス大学、Dr. ルー、Dr. ストーリー来熊

- ・田尻熊本市長を表敬訪問.....寺 脇 博..... 2
- ・講 演 会.....永 田 省 蔵..... 3
- ・歓迎レセプション.....大 嶋 健 一..... 4
- ・Dr. ルー夫人、Dr. ストーリー夫人ガイド記.....大 嶋 弓 子..... 5

母と子のよい歯のコンクール.....弥 永 康 博..... 6

第11回熊本市学校保健合同研修会..... 7

医療廃棄物処理説明会..... 8

市民病院との懇談会.....菅 原 洋.....10

スタッフ研修セミナー.....松 本 真 典.....11

第14回バレーボール大会.....西 口 和 弘.....12

- ・中央A、2連覇なる.....秋 山 清.....14

- ・北部Iの奇蹟.....陣 内 照 美.....15

- ・来年こそは.....大 塚 志 郎.....16

本 日 休 診

“パールライン・マラソン”沢 木 孝 明.....19

“ファミリーキャンプ in 甲の瀬”奥 田 良 樹.....20

勉 強 部 屋

歯牙移植後に口腔前庭拡張術を行なった一例.....木 村 浩 幸.....21

新入会員紹介.....25

会 務 報 告.....26

編 集 後 記

熊本市姉妹都市サンアントニオよりテキサス大学の二教授来熊

Dr. ルー、Dr. ストーリー 田尻靖幹熊本市長を表敬訪問

広報委員会 寺 脇 博



田尻熊本市長表敬訪問

平成2年6月29日熊本市歯科医師会主催、熊本市後援の学術講演会の為来熊されたDr.ルー、Dr. ストーリー御夫妻は、どしゃ降りの雨の中、熊本空港へ到着。途中車の渋滞の為予定を一時間程遅れてホテルへチェックインされた。

午後からサンアントニオ市長より熊本市長へのメッセージを携え両先生御夫妻が田尻靖幹市長を表敬訪問された。市歯の執行部からは中根会長、鈴木副会長、関専務理事、伊東理事が同行した。

全員が着席した所で田尻市長から早速、両Dr. への旅の疲れをねぎらう挨拶があった。市役所女子職員の方の通訳でサンアントニオ市長よりのメッセージの伝達、又田尻市長よりの御礼の挨拶が行なわれた。

その後中根会長より両御夫妻の紹介と今回、

熊本市よりの御後援への御礼が述べられた。熊本市の方からは御厨熊本市助役より、出席された職員の紹介が行なわれた。Dr. ストーリー先生は「今回熊本へ来られて、このような歓迎を受けた事に大変感謝します。両市とも緑に恵まれた美しい都市で、これから地球的規模で緑を守り育てていかなければいけません。これを機会に両市はより交流を深めましょう」と田尻市長と固い握手をされた。又、御厨助役が両Dr. の夫人の事に話を移されると「私達は大変日本文化を尊敬しています。自分は陶器や山水画を学んでいるが日本のこのような文化は実に素晴らしいものです」と挨拶され、応接室に飾ってあった中国から送られた大きな山水画を眺めておられた。和気あいあいの歓談は予定時間を大幅に越え、両氏と熊本市からの記念品の交換が行なわれ熊本市役所を後にした。

最後に今回の企画に御後援いただきました熊本市に対し深く御礼申し上げます。

Dr.Rugh, Dr.Storey の講演会

学術委員会 永 田 省 蔵



Dr. ルー、Dr. ストーリー夫妻

去る6月29日、ホテルキャッスルに於いて熊本市の姉妹都市の米国サンアントニオ市テキサス大学より、Dr.Rugh、Dr.Storey 両先生をお招きして熊本市のご後援をうけて講演会が行なわれた。講演の要旨は次のようなものであった。

Dr.Rugh『ブラキシズムー病因、診断、マネージメント』夜間のブラキシズムは歯牙の摩耗、咀嚼筋群の疼痛、顎関節症、ある種の頭痛の原因となり、加えて大きな補綴処置を行なう際には深刻な問題を提起する。夜間のブラキシズムの咬合及び心理-生理学的理論からの研究で言えることは、ブラキシズムは簡単にコントロール出来るものではなく、以前はいかにしてやめさせるかという方向であったが、現在は咬合力を分散させることを目標にしている。スプリントは bi-lateral

balanced occlusion を作り出すような、上顎全歯をカバーするタイプが有効である。

Dr.Storey『クリッキングー病因・診断・マネージメント』レシプロカル・クリッキング（相反性クリック）の原因として、長期化した関節頭の後方転位による関節円板の前方転位、又は閉口運動時に於ける内側翼突筋の調和不全により引き起こされると言われていた。しかし、関節頭の後方位は顎関節患者に多く見られるものの、正常な顎関節に於いても認められるし、屍体を用いた研究によるとクリッキングは内側翼突筋の活動とは関係なく発生し得るものであり、現時点ではクリックの原因は未知である。治療には、①スタビライゼーション型スプリント②アンテリアリポジショニングスプリント③理学療法などがあるが、①③では症例の60%が治癒したのに対し、②は38%の成功率でしかなかった(1988 Clark)。つまり相反性クリックに対して、アンテリアリポジショニングスプリントは特に有効な方法ではない。一般的に成功率が高いのは、クリックが早期におこる場合であり、中、後期におこる場合は成功率が低い。また、患者が長期にわたるクリッキングの既応を持っている場合は治癒しにくく、新しいクリッキングでは治癒しやすい（発症1年以内では70%は

治るが3年以上経ったものでは成功率は低くなる。)しかしながら、関節円板後方の組織は高度の適応性を有しているので、過剰な力が加わらなければ自然治癒を期待できるのである。



講演会場

歓迎レセプション

「10数名の会員婦人の手伝いで大いに盛り上がり両市の交流親善深まる」

大 嶋 健 一

学術講演会に引き続き、ホテルキャッスル2階ホールにて、ストーリー教授夫妻、ルー教授夫妻の歓迎レセプションが開催されました。中根会長の歓迎の挨拶、宇治県歯科医師会会長、御厨熊本市助役より挨拶があり、鈴木副会長の乾杯の発声によりパーティーが始まりました。当夜は熊本市のご後援を頂き、各界よりのお客様を迎え120数名にも及ぶ盛大なパーティーとなりました。

会員の先生方は日頃慣れない英会話でフラストレーションがたまるのではと思われましたが、そこはさすがに歯科医師会、アルコー

ルが入るとすぐ(?)舌も滑らかになりあちらこちらで「ハウ・アー・ユー」「オー・イエス」と笑い声と共に和やかな歓談が開かれました。又、このレセプションには、10数名の会員婦人にもお手伝い戴いて大いに盛り上げて戴きました。(遅くまで本当にありがとうございました。)

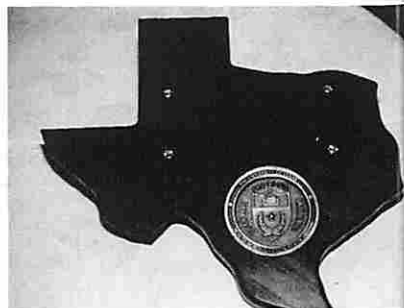
終わりに伊東理事より「この機会が線香花火とならぬ様、これからも大いにお互いに親善交流を続けましょう。」と挨拶があり、10時過ぎにお開きとなりました。



レセプション会場



サンアントニオ市からの寄贈盾



1日素人ガイド奮闘記

「Dr. ルー夫人、Dr. ストーリー夫人を案内して」

大 嶋 弓 子 (大嶋健一夫人)

6月29日午前中から降り続いたひどい雨で、もしかして中止になるのでは？という淡い期待を持ちましたが、飛行機到着との報に思わず食事も喉を通らなくなりました。

3時に添島正和先生の奥様と、市役所ロビーで待ち合わせ、市長表敬訪問より降りて来られた Dr. ストーリー、Dr. ルー夫妻に御会いました。これより男性群は講演会の打合わせ、私と添島夫人とで観光案内の予定ですが、水前寺公園・熊本城と資料を集め（これしか英語のパンフレットが無い）準備万端と思っていた所「陶器が見たい、どこかディスプレイしてある所はないか？」と言うではありませんか。二人は殆どパニック、目は点になってはおりましたが、ここは友好親善は『笑顔8割、言葉が2割』という友達の言葉を信じて、いざ伝統工芸館に出発しました。

御婦人達は今まで東京・京都・大阪と、おもに観光が主だったそうで、ここにある様な陶器、和紙、畳、はし、工具等を見ると、「こんな物が本当に見たかった。こういう所に来たかった。（という様な事を英語で言われました）」と言って大変喜んで戴けました。

アッという間に時間が過ぎ閉館の時間となり和紙やはしおき、ござ等をおみやげにと買って、名残惜しそうに、「明日の朝もう一度来てみたい」と言ってホテルに戻られました。お二人共、日本の文化、芸術に造詣が深く私

供のつたない英語の案内でも一生懸命理解して楽しんで下さり、私達二人のお手伝いも無事終わる事が出来ホッといたしました。

7月1日（日）にお見送りに行きましたら大変喜んで下さり短い時間でしたが再度友好を深める事が出来た様な気がしました。帰りがけに添島夫人と『英語はむづかし!!』と確認しあい帰路につきました。



添島夫人大嶋夫人とともに



Dr. ルー夫人



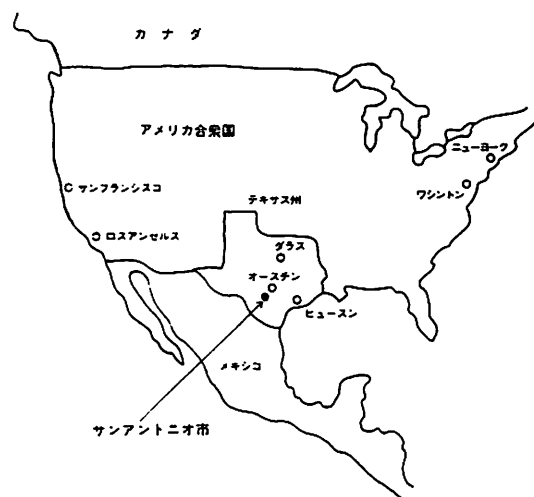
Dr. ストーリー夫人

【サンアントニオ市の概要】

人口90万人を擁する全米第9位の都市サンアントニオ市は、アメリカ合衆国テキサス州南西部に位置し、年間観光客数1千万人以上を誇る全米有数の国際観光都市です。特に有名なのは、テキサス独立戦争の際の激戦地「アラモの砦」。又、市内中心部にはサンアントニオ川が流れ、青々と繁る熱帯植物に囲まれた静かな散歩道「リバーウォーク」は、緑と治水をみごとに調和させた都市計画の一例として世界の都市づくりの模範例となっています。

歴史と伝統、多様な文化が息づくサンアントニオ市は他方でアメリカ産業の中心、サンベルト地帯に属し、進取の企業スピリットに溢れ、来る10年間の成長商業区のトップ10の1つに選ばれています。

1年に300日以上晴天と、年間平均気温20℃という気候に恵まれ、一年中野外活動が楽しめる街、サンアントニオ市です。



熊本市とは1987年に姉妹都市となり、以来各種の事業、行事により緊密な関係を結んでいます。

第39回「母と子のよい歯のコンクール」

口腔衛生委員会 弥 永 康 博

平成2年5月26日（土）県歯科医師会館3Fホールに於いて、熊本市と熊本市歯科医師会主催の「母と子のよい歯のコンクール」が開催されました。

市内の各保健所と保健センターに於いて、3歳児健診を受けた市内の幼児とお母さんを対象として、5月7日より5月11日まで予備審査が行われました。参加者46組中審査の結果20組が選ばれコンクールに参加しました。

審査にあたる口腔衛生委員4名（青木、名川、村上、沢木）の紹介の後、コンクールの開始され審査基準に従って歯牙、歯列、咬合歯肉、歯口清掃の状態を審査し、母子合計20点満点の減点法で点数を付け、4名の審査員の合計点により評価が行なわれました。例年に比べて、母親の口腔状態が良く優劣付けが難しい様ではありましたが、厳正なる審査の結果、「優秀賞」2組、「歯の衛生週間賞」4組

「よい歯のコンクール賞」14組、が決まりました。

優秀賞には、戸島町の岩男由紀枝さん・顕正君親子と、九品寺の立石鶴美さん・彩ちゃん親子の2組が選ばれ、6月9日に開かれる県大会に熊本市代表として出場致します。

表彰式は、市の田尻衛生部長の挨拶にはじまり、つづいて中根会長より「コンクールの歴史と、参加された方々が市民の歯の健康増進のため一翼を担ってほしい」と言う主旨の挨拶があり、最後に審査講評を矢毛石先生が行なわれコンクールは終了しました。

稿を終えるにあたり、保健所の吉良先生をはじめ関係者の方々の御協力に感謝致します。



審査風景



優秀賞（県大会へ出場）

立石鶴美さん
彩ちゃん

岩男由紀枝さん
顕正くん

第11回 熊本市学校保健合同研修会



学校保健功労者の表彰を受けられた
富岡治雄先生

平成2年6月13日（水）産業文化会館に於いて学校保健総会並びに学校保健合同研修会

が開催されました。総会に於いて本会会員より富岡治雄先生（川尻小学校、川尻幼稚園）が学校保健功労者として表彰を受けられました。総会に続いて、「自ら進んで健康生活を実践する児童生徒の育成」－豊かな心とたくましい体を求めて－を主題としてシンポジウムが行われ続いて健康学の視点～特に食と健康～（小山和作）児童、生徒の健康とスポーツ（米満弘之）心の健康な児童、生徒（川俣英史）の3人の先生の特別講演が行われました。

学校歯科委員会

医療廃棄物処理説明会開催

“内容、方針は大変厳格なもので、早急な対応が必要”

去る7月11日（水）午後7時30分より歯科医師会館において会員70数名出席のもと、熊本市保健衛生局清掃部清掃管理第一課による説明会が開かれました。

荒尾課長と、中根会長の挨拶の後、課員三名により一時間半説明及び今後の方針等の説明が行なわれました。内容については以下に掲載いたします。

医療廃棄物の安全な処理について

熊本市清掃管理第1課

I はじめに

昭和62年にある病院内で起きた使用済み注射針の感染事故を機に、同様の事故が廃棄物の運搬や処分する過程でも起こるのではないかという不安や環境保全の面から、医療廃棄物の処理が大きな社会問題となっている。

このような状況に対処するため、本市では昨年5月に医療機関を対象にアンケート調査を行い、このたび「医療廃棄物を安全に処理するために」と題した医療廃棄物の処理のためのガイドブックを作成したので、その概要について紹介する。

II ガイドブックの概要

1 医療廃棄物の定義

医療廃棄物とは、医療関係機関において医療行為に伴って発生する廃棄物のことを言う。感染のおそれのある廃棄物とは、使用済み注射針や血液の付着したガーゼ等を言う。

2 廃棄物の分別と容器

感染のおそれのある廃棄物は、病原微生物の拡散防止のため他の廃棄物と分別する。さらに、廃棄物の性状や処理方法の違いから次のように分別し、適切な容器で梱包する。

(1) 血液等のついた鋭利なもの（注射針、ガラスくず等）

- ・金属やプラスチック製のかたい容器に入れる。

- ・黄色のバイオハザードマークをつける。

(2) 血液等のついたその他のもの（脱脂綿、ガーゼ等）

- ・厚手のビニール袋（2重にしたもの）に入れる。

- ・橙色のバイオハザードマークをつける。

3 滅菌

感染のおそれのある廃棄物は院内で滅菌することが望ましいが、出来ない場合は、焼却か熔融することができる処理業者に委託して処理する。

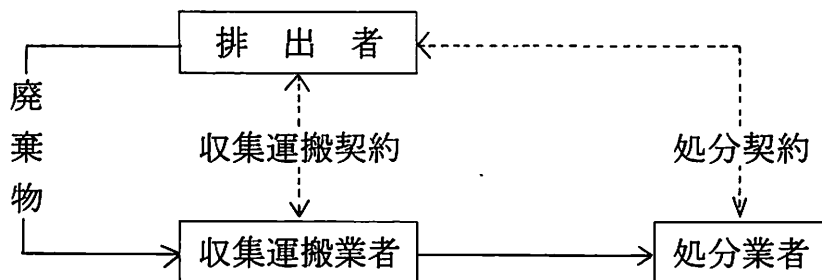
4 保 管

感染のおそれがある廃棄物の保管場所は、関係者以外立ち入れないようにする。

5 処理の委託

法律によると、廃棄物の処理責任は廃棄物の排出者にあるとされている。廃棄物の処理を委託したときは、次のことに注意をしながら契約を結び、委託した廃棄物が適正に処理されたことを確認する。

(1) 許可証の写しを提出させて次のことを確認する。



① 業の範囲（収集運搬業・中間処理業・最終処分業）

② 取扱うことが出来る廃棄物の種類

③ 期限・条件

④ 処理の方法、施設の能力

(2) 廃棄物の収集運搬と処分を別々の業者に委託するときは、収集運搬業者と収集運搬の契約を処分業者と処分の契約をそれぞれ結ぶ。

(3) マニフェスト（伝票）等で委託した廃棄物が適正に処理されたことを確認する。

6 市の収集と処理

(1) 本市では、事業所から排出されるごみの収集はしていないので、感染のおそれの有無にかかわらず、市の収集に出すことはできない。

(2) 市の処理施設として2つの清掃工場と1つの埋立地があるが、感染のおそれのあるものを持ち込むことはできない。特に注射針は、滅菌して破碎したものでなければ持ち込むことはできない。

Ⅲ おわりに

これまで述べてきたことのなかには、時間をかけなければ対処できないような問題もあり、今年一杯を指導期間として考えている。しかしながら、感染事故防止の観点から出来るかぎり早急な取組みを願うものである。

※医療廃棄物の処理に関するお問い合わせは、

熊本市清掃管理第1課

（TEL 328-2365）まで

※ガイドブックの申込は、

市歯科医師会事務局まで

“市民病院との懇談会”

常務理事 菅 原 洋

熊本市市民病院と本会との懇談会が、去る5月28日（月）午後7時より“みよ”において廣田耕三病院長、川口辰彦歯科医長をお招きし、本会より中根会長、鈴木副会長、杉野常務、伊東理事と私が出席して行われましたのでご報告致します。

中根会長の挨拶に始まり、その中で

- 1) 寝たきり老人等の歯科治療における二次的後継病院としてご協力のお願い
- 2) 救急病院としての応援のお願い
- 3) 地域住民の口腔癌等の検診協力をお願い

等の提案があり、これを受けて廣田病院長が「3項目の明解なるご提案を頂きありがとうございます。私が日頃病院歯科の問題点とと思っていました事柄をずばりご指摘頂き本日の懇談会は大成功の一言につきます」というご挨拶で始まり市民病院の各科の参加を招へいされた。

懇談会は有意義の内に終了し、今後も両者の交流を密にすることを申し合わせて無事終了しました。

尚席上川口先生より資料をいただきましたので下記の通り掲載しますのでご一読下さる様お願い申し上げます。

市民病院歯科よりの提案

1. 情報交換、コンタクトを緊密にする。
 - ・ 当院学術雑誌および診療統計などの送付
 - ・ 当院学術懇談会および各種講演会、勉強会などの公開とお知らせ
2. 病院全体との病診連携
 - ・ 歯科診療中の緊急時、当院への搬入、全身的管理、治療…（麻酔科、循環器科との関連）
 - ・ 必要に応じてCT、FCR、MRI、RIなど（将来設置の予定も含めて）高度診断機器の積極的利用…（中央放射線科との関連）
 - ・ HB抗原陽性、出血傾向などの疑いのある患者の検査利用…（中央検査部との関連）
3. 主に歯科および関連各科との病診連携
 - ・ 心身障害児（者）歯科治療の受け入れ（主に全身麻酔下歯科治療を要する患者）
 - ・ 老人歯科治療の受け入れ（主に全身的管理を要する患者）
 - ・ 後出血等、開業歯科医院よりの依頼による救急歯科治療の受け入れ
 - ・ 観血的治療の困難な患者の受け入れ（非観血的治療の段階で、開業歯科医院に依頼）
 - ・ 口腔外科的疾患や上記以外の患者は、で

きるだけ患者の居住するお近くの歯科医院を紹介するルート

4. 当院歯科としては、将来的に

- ・心身障害児（者）歯科医療（特に中等症～重症）
- ・有病児（者）歯科医療（血友病、白血病、慢性腎炎、肝疾患、心疾患、リウマチなどの患者への歯科医療）
- ・顎関節疾患、心身歯科医学、外傷による骨折などを中心とした口腔外科の疾患に対する医療
- ・老人歯科医療のなかでの入院を要したり、

観血的処置を要する部分を特に担当する医療

- ・二次的な救急歯科医療
- ・生涯研修の部分で、病院全体での歯科医師の研修…特に卒業後間もない若い歯科医師の、中央手術部門や他科との隣接領域的疾患への見方に関する研修などを担当するなど、総合的に兼ね備える歯・顎・口腔医療センター（仮称）的構想を持っており、市歯科医師会よりの御指導、御協力を仰ぎたいと考えています。

「スタッフ研修セミナー」

医療管理委員会 松 本 真 典



上 田 益 代 先生

平成2年6月16日（土）歯科医師会館3Fにおいて毎年恒例となっているスタッフ研修セミナーが講師、上田益代（熊本看護専門学校副校長）先生をお招きして市医療管理委員会の主催で行われた。講演会は、午後3時か

ら尾上宏先生の司会により、鈴木勝志副会長の挨拶の後、講師の「スタッフの態度いかにしては、無条件に院長、医院、ひいては、医療そのものへの不信感を抱くものにもなりかねないので、常に患者の身になって医療に携わる事が大事」という事を承り、常日頃、自分でわかっている事とは思っていても忘れがちな事を、再認識させられたような方が多いように思われた。

当日は、従業員諸氏にとって貴重な土曜日にもかかわらず、100名を越す受講者を数え、会員の方々のスタッフ研修に対する並々ならぬ関心の高さが伺われた。

第14回熊本市歯科医師会バレーボール大会

中央Aの2連覇!

厚生委員会 西 口 和 弘



選手宣誓
川 原 雄 次 先生

去る7月1日あいにくの雨の中、東海大学第2高校体育館において11支部12チーム参加のもと第14回熊本市歯科医師会バレーボール大会が開催されました。

午前9時すぎ中根会長の挨拶に始まり昨年優勝の中央Aよりトロフィー返還、柿原厚生委員長よりルール説明、審判員の紹介がなされ予選リーグの組合せ抽選が行なわれた。抽選後東部1川原雄次先生の選手宣誓後いよいよ試合開始となりました。

今年は中央Aの連覇になるか、昨年準優勝の北部2が巻き返すか、あるいは力をつけてきた川尻が一気に優勝するか注目されましたが、結果は昨年と同じチームによる決勝となりフルセットの末、昨年に続き中央Aが北部2を破って優勝しました。その他では北部1の躍進（前年11位一今年5位）が目立ちまし

た。

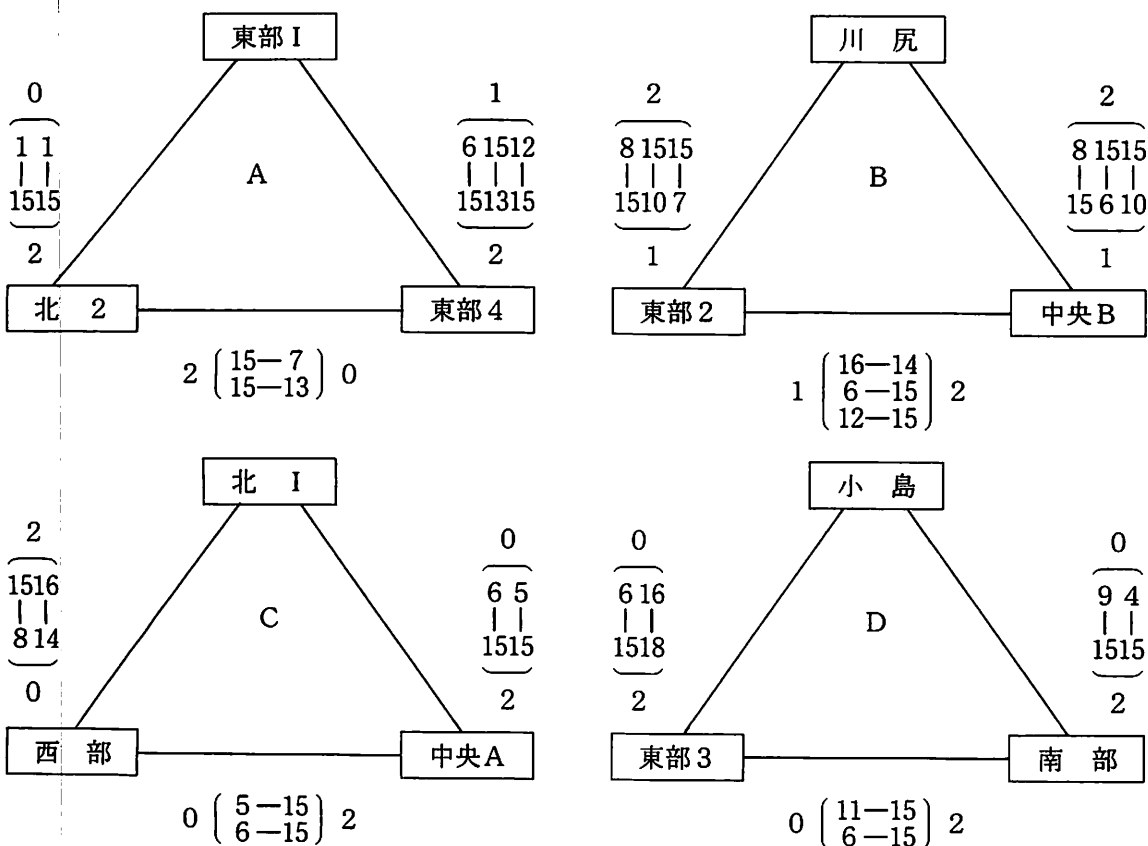
最後に鈴木副会長より閉会の辞があり4時すぎに無事終了しました。

〈順位〉	優 勝	中央A
2 位	北部2	
3 位	川尻	
4 位	南部	
5 位	北部1	
6 位	東部4	
7 位	東部3	
8 位	中央B	
9 位	東部2	
10 位	小島	
11 位	東部1	
12 位	西部	

〈個人賞〉

	優秀選手賞	敢 闘 賞
中央A	斉 藤 雅 子	佐 藤 哲 夫
中央B	坂 口 倫 章	亀 山 知加子
東部1	上 野 律 子	高 田 萌 佳
東部2	椿 幸 雄	上 田 いずみ
東部3	大 川 智 弘	松 本 修 子
東部4	富 田 由 美	佐 藤 千 世
北部1	金 子 三 郎	田ノ上 輝
北部2	上 村 祐 代	井 春 美
南部	坂 本 多 恵	川 原 寿 文
西部	宮 川 高 次	武 田 清
小島	石 貫 明 美	宮 川 満寿雄
川尻	内 村 みゆき	村 上 直 美

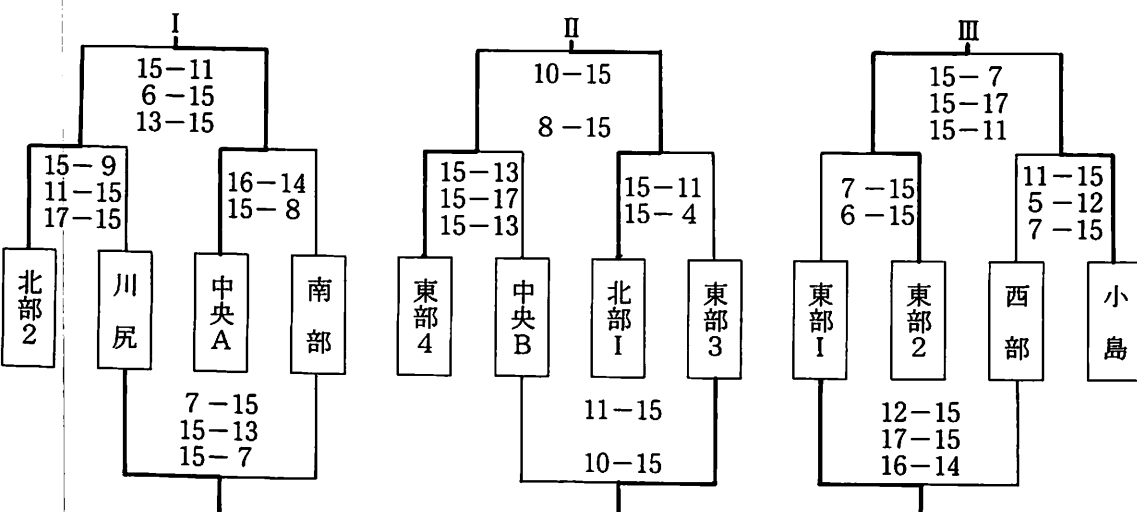
《予選リーグ》



《決勝トーナメント》

《5～8位決定戦》

《9～12位決定戦》



“中央A、2連覇なる”

～中央支部の選手としての奮戦記～

中央支部 秋 山 清



優勝トロフィー授与

今年もまた恒例の、歯科医師会バレーボール大会が7月1日（日）東海第2高校体育館に於いて、午前9時より行われました。当日はあいにくの天候にもかかわらず、昨年に増す参加者の数で、会場内は熱気に満ち溢れ、選手のみならず応援の人達も喉と手の運動を十分されたのではないかと思います。

さて、今年の我が中央支部は練習開始初日、僅か4人からスタートし、最低参加人数18名が集まるかどうか心配される状況でした。これに反するかのようにその日の済々黉体育館では、今にもサインプレーでも出して来そうな北部2の気合のはいった練習が行われていました。その時の斉藤支部長の悲し気な、丸々とした（？）横顔は、今でも私の脳裏にやきついていきます。

そして、斉藤支部長、川崎先生、佐藤事務長らの熱意が徐々に支部内に浸透してゆき、

最後の練習日には20名を越す参加者が得られ、大会に臨む事となりました。

例年通り各支部の戦力はレベルアップしており、作戦タイムを取る機会を要する試合もありましたが、何とか勝ち進み決勝戦を迎える事になりました。

戦前の予想通り決勝の相手はあの北部2となり、練習の事を思うとやや気が引ける感じが私の胸の内には正直あっていました。

一目見て平均年齢が若く、経験者が多い様な俊敏な動きの北部2、チアガールでも配していそうな北部2の華やかな応援の人達。開始前の状況では明らかに北部2優勢という感を持たれた方が多かったのではないのでしょうか。

第一セット終始リードを奪われ、菅原先生のプレーに対する抗議もありましたが流れを変えられず北部2の先取。その直後のセット間のミーティングで、千場先生の我々に発した奮起を促す言葉が中央Aを1つにし、続く第2・第3セットを接戦の末、何とか勝ち取る事が出来ました。

流れを変える作戦タイム、ピンチサーバーの起用、そして試合が始まってから生まれた“B”攻撃。何よりも窮地にたたされてからの底力が、我が中央Aには存在しているとい

うのが最大の勝因であったと思われます。

優勝トロフィーを抱える斉藤支部長の笑顔が、私にとって何よりの喜びとなるものでした。

そして各自一担シャワーを浴びてからのその夜の中央A B合同の祝勝会。他の支部は日を改めて開くという噂ですが、中央支部は毎年必ずその日に宴が催されるのです。翌日の事もあり無理は出来ませんが、この中央支部の人との交流を大切にする心が優勝の原動力

となったのではないかと私は考えております。

熊本に帰ってから今年で4年が経ちましたが、この大会を通して地元の先生方、他のD、Cのきれいなスタッフの方々ともお会いする事が出来ましたし、色々な面で参加してきて良かったと実感しています。

まだ参加された事の無い先生方、スタッフの皆様、御家族の皆様も一度足を運ばれてみたいかがでしょうか。必ず楽しい一日が過ぎせる事と私は思います。

“北部 I の奇蹟”

北部 I 陣 内 照 美 (稲葉歯科)

朝から降り続く強い雨にもかかわらず体育館内は熱気にあふれていました。北部1の奇蹟の猛攻撃が始まったのです。万年11位の私達は朝、第一試合に中央Aと当り2セット連取されて簡単に負けてしまいました。(ア～アッ今年も…)と誰でもが思ったに違いありません。しかし、西部に逆転勝ちして以降、東部3、東部4となみいる強豪を1セットも落とさず勝った時には、全員が何が起こったのか分からないという状態でした。総合5位、これは夢にも思わぬ結果だったのです。

今回の勝因は、ひとえにチームワークです！私と清田（稲葉歯科）の強烈なイナズマサーブ、金子さんと加藤先生（堤歯科）の回転レシーブ、我が稲葉先生の目にも止まらぬジャンピング・アタック等、一糸乱れぬコンビネ

ーションと大嶋先生、藤波先生、その他の声を枯らしての応援、全てが一体になったの怒濤の勢いでした。(運も少しあった様です。)

お陰でコートサイドでシューズをはきかえて、ウォームアップをなさっていた田中支部長、堤先生に出番が回らなく残念がられていました。

そして当日夜6時半からの打上げには、中根会長、林田先生を迎えて例年以上の盛上がりを見せました。来年は優勝決定戦で中央Aと戦いたいものです。

(お嫁にっていなければ！)

“ 来 年 こ そ は !! ”

南 部 大 塚 志 郎

今年のバレーボール大会は、優勝をねらう我々南部チームとしては総合4位という不本意？な結果に終わりました。予選リーグでは2試合ともストレート勝ち、しかも15人全員バレーで勝つという、余裕のスタートを切りました。

この調子なら優勝できるぞ！？とだれもが思ったにちがいありません。ところが、準決勝中央Aとの試合では、第一セット15-17と善戦したものの、第二セットはあっさり負けてしまいました。例年指摘されるのですが、我々南部チームは、強い時と弱い時が極端な様な気がします。

来年こそは、接戦をものにするチームワー

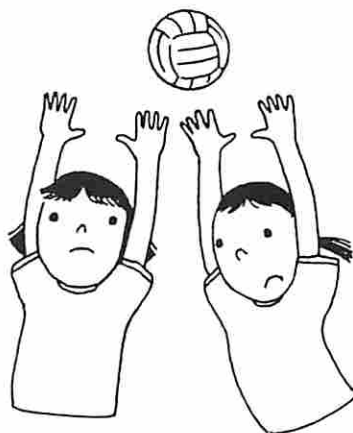
クができればと思います。

今回は、佐賀ウィンブルドンでの全九州歯科医師テニストーナメント及び新樹会の学術講演会をパスしての出場だっただけに残念でした。

最後に4回の練習中2回しか参加できず、みなさんに迷惑をかけてすみませんでした。

又、応援に来て下さった先生並びに家族の皆様、本当にありがとうございました。

バレーボール大会は、ドクターと従業員が気持ちを1つにしてともに汗を流し楽しめる行事ですので、厚生委員会の先生方、この大会を恒久的行事として定着させていただきたいと思います。



各支部の精鋭達



中央 A



中央 B



東部第 1



東部第 2



東部第 3



東部第 4



西 部



南 部



北部第1



北部第2

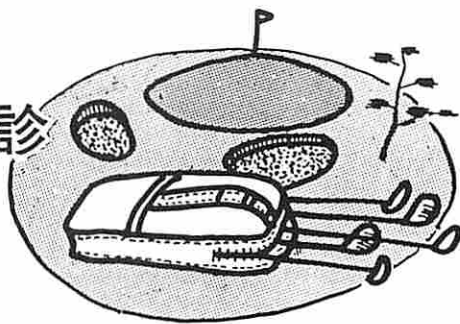


川 尻



小 島

本日休診



"第18回天草パールライン・マラソン" を観戦して

口腔衛生委員会 沢 木 孝 明



歯科医師会協力委員の面々

「頑張って行こう！ ゆっくり行くぞ！ 笑顔で行くぞ！ 帰ってこいよ！」 加地正隆大会委員長のユニークな掛け声でスタート。

平成2年3月11日（日曜日）熊本県地方は雲り空の一日でしたが、大矢野町では「遅いあなたが主役です」を合言葉にした天草パールマラソンが行なわれました。

開会式では、大会委員長が「どんなに速く走っても、スピード賞は出ません。景色を楽しみながらゆっくり走って下さい」とユーモアあふれる挨拶をしました。これに対して94人が集団参加した製薬会社の代表3人が選手宣誓をしました。

マラソンは大矢野町の宮津グラウンドをスタ

ートゴールにして20kmと10kmコースで行なわれました。外国人選手29名を含む5129名が、つぎつぎとスタートしました。

20kmコースは天草五橋のうち4つの橋を往復するコースで、選手達は青い海と小さな島々が浮かぶ景観を満喫しながら走っていました。また99才の奥山岳一さんも参加した10kmコースは、華やかな姿の若い女性や主婦、親子づれ等もそろって走る人気のコースです。コースの途中には町の人達が祭りに使う鐘や太鼓を叩いて大会を盛り上げていました。選手の中には月光仮面や背負ったカラオケの音楽に合わせながら走るおてもやんも登場して沿道の人達を楽しませていました。

尚、熊本市保健医療専門団体連合会による走る前と後の健康診断が行なわれました。大会出場選手の希望者の中から220名を抽選して心電図、血圧、脈拍、尿、体重等の検査が行なわれました。結果は後日、本人に通知する事になっており好評を得ていました。

市・広報委員会

“ファミリー・キャンプ in 甲の瀬”

奥田良樹

日頃、委員会で家族が犠牲になっている時がある為、たまには家族サービスをしようと言う寺脇理事の一言で、去る5月26日、27日の1泊2日、南小国の甲の瀬キャンプ村にてファミリーキャンプとバーベキュー・パーティーを行った。

前泊組は寺脇、奥村、蔵田、奥田そして“おたふく風邪”でダウンの鬼塚先生のピンチヒッターとして合沢一家が加わり、大人9名小人8名の大家族。

夕食のメニューは、なんてったって“カレー”である。オバサン組はカレーの仕込。問題は男、子供組の「こめとぎ」と「かまどに火をおこす事」であった。

小生の小学校時代は風呂を湧かすことが私の仕事の1つで、懸命に火をおこしていたのだが、現代っ子はそういう機会が無いので幸せ半分である。とにかく、ライターで直接マキに火を付ける有様で、火がもえあがるまで大変だった。又、御飯のたき具合、カレーの水かげんも大騒動。しかし出来上りは最高で大人も子供もどんどんおかわりしていた。

やがて日が暮れ、花火とキャンプファイアーの時が来る。子供達は花火に、大人達は酒を飲みキャンプファイアーに青春時代を思い越し、満天の星空の中それぞれの夢にひたっ

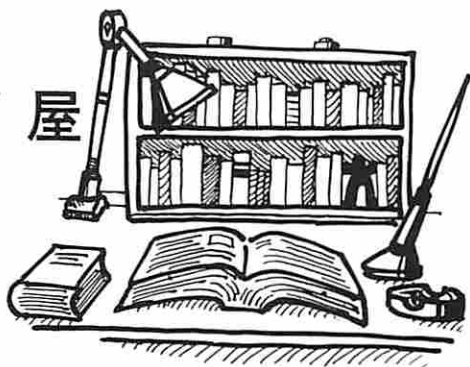


ていた。この日、酔って意識不明の者3名。マキの燃えカスとビールの空カン数十個、焼酎のあきビン1本、そして花火の残りカス。

翌5月27日(日)11時、甲の瀬キャンプ広場。当日組が続々と到着。寺島一家、奈良一家そして永野一家と都合で来れなかった太田一家をのぞき全員集合。大人15名、子供15名の大量バーベキュー野外パーティーが始まった。炭に火をおこすのも一仕事だったが、どうにか順調に出来、肉、野菜そしてビール、ジュースの食べ放題、飲み放題で、好天の中、全員汗びっしょりで楽しそうに食べ、語っていた。

食後の運動は昔なつかしの三角ベースの草野球。親子入り混じって大熱戦？が繰りひろげられた。その後は思い思いに昼寝、ダベリング、子供達は水遊びに夢中。4時解散。大自然の中でひさしぶりのリラックスタイムであった。二日酔いの為、ゲロを吐きながら車を運転して帰った先生がいましたが、本人の名誉？を傷つけぬ為、あえて名前は伏しておきます…。

勉強部屋



歯牙移植後に口腔前庭拡張術を行なった一例

木村浩幸

《諸言》

自家歯牙移植の成功例が1948年 Apfer によって発表されて以来、自家歯牙移植に関する臨床的ならびに基礎的研究が数多くなされてきた。一方、セラミックやハイドロキシアパタイト等の生体材料の開発が著しく、これらを用いたインプラント臨床が年々盛んになっている。

歯牙移植はもっとも古くから用いられているインプラント方法であり、歯根の吸収に対する問題が解決されれば最高のインプラント材料となると思われる。

Schröder は歯周病学的見地からインプラントは角化した不動性の歯肉に行うべきだと報告している。私は歯牙移植も同様と考え、移植後に粘膜移植を行ない経過良好な症例を得たので報告する。

《症例》

・患者：28才女性

・初診：昭和63年5月14日

・主訴：7|部違和感

・現症

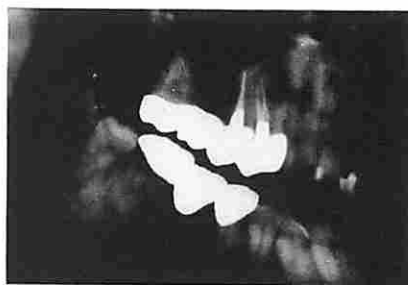
1. 口腔内所見

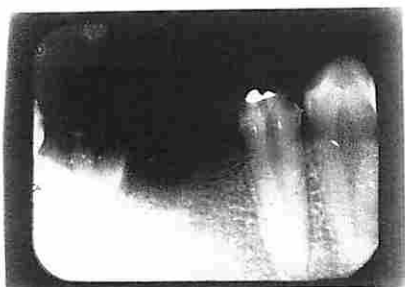
⑦6⑤にブリッジが装着されているが、7|の周囲は二次カリエスが著明で、動揺度第2度、周囲歯肉は発赤、腫脹し、角化性付着歯肉もほとんど認められなかった。

2. X線所見

7|は残根状態で歯根周囲に6|部から8|近心にかけて内部均一で境界不明瞭な瀰漫性の骨硬化像が認められた。

8|は歯冠の一部が認められたが、半埋伏の状態であった。





歯根には、彎曲、開大など認められず、根尖はほぼ完成していた。

3. 処置ならびに経過

昭和63年7月27日、7を抜去し、ラウンドバーで移植のために歯槽窩の形態を整え、8を移植した。その後、粘膜を縫合し、咬合は低位にして移植を終えた。



移植2ヶ月後、電気診断学的に生活反応が認められなかった為、通法どおり、根管処置を行った。



また、術後癒痕治癒により、口腔前庭の狭少を認めた。7部の頬側付着歯肉が約1mm程度であったため、昭和63年11月24日遊離歯肉移植術による口腔前庭の拡張を行った。その手術の手順として、

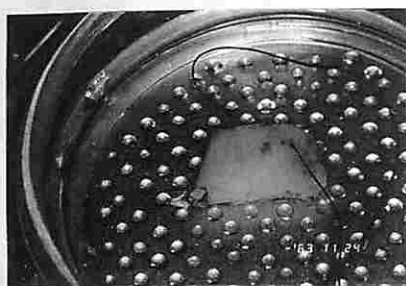
- ① 7部頬側粘膜を一層の骨膜を残しながら剥離。



- ② 剥離した粘膜断端を骨膜と縫合。



- ③ 口蓋より粘膜を採取



④粘膜を頬側移植床に縫合固定し、床副子にて圧迫固定した。



経過は良好で、12月29日最終ブリッジを作製し合着を行った。

約22ヶ月経過した現在、⑦⑥⑤ブリッジは歯牙の動揺やポケットの形成も認められず、骨植は強く普通に咀嚼でき経過は良好である。



また、デンタルX線写真では、⑦部歯根周囲に認められた反応性のX線不透過像は術前に比べ、⑦根尖部に縮小し、これに連続した歯根尖に吸収が軽度疑われるが、その他の部位には明らかな吸収像は認められない。



《考 察》

歯牙移植を行うにはまず、術前のX線診査を十分に行う必要がある。移植床の形態、大

きさ、根尖病巣の有無ならびに移植歯の近遠心的および頬舌的な歯冠の大きさや歯根の完成度や形態等も吟味する必要がある。本症例において、移植床の⁷歯根周囲に反応性と思われる骨硬化像が認められ、移植後、周囲の骨の形成の妨げになるかもしれないといった不安はあったものの、術後抗生剤の十分な投与および、対合歯との咬合調整や、患者の毎日の適切な口腔内清掃により、歯周炎の発生をおさえることができ、X線学的にも骨の形成は順調に行なわれたように思われる。

次に移植歯の歯根周囲の治癒過程は、治癒、骨性癒着、吸収、脱落の3種類があり、一番問題となるのが、吸収脱落である。AndresenとHansenは抜歯後30分以内に移植された歯牙の90%には歯根吸収はおこらず、抜歯後90分以上経過した歯牙を移植した場合にはほとんどの症例で歯根吸収をおこすと報告されている。本症例の場合、移植床の形成が順調に行なわれ、また歯髓の回復を期待して、根管処置を行わずに移植を行ったことが結果的に30分以内で移植が完了できた原因と思われる。

る。

また移植の際、歯根膜の保存の必要性については、Hammer、Loe Waehaugらにより述べられている。鈴木、香川らは歯牙の生着には歯根膜が重要な役割を果たし、またその損傷は免疫反応の原因となると報告している。すなわち、口腔外放置時間が長いほど、歯根膜線維および歯髓の変性が進み、歯根吸収の程度が高まる。移植歯の口腔外放置時間をいかに短縮するかが、成功のカギとなると思われる。

インプラントは角化性不動歯肉に移植しないと予後不良になるとSchröderは述べており、歯牙移植も同様に考えられる。本症例において移植歯の付着歯肉の不足が認められたため、歯牙が正着したのを確認した後、遊離歯肉移植術により角化した不動性歯肉を獲得する目的で、口腔前庭拡張を行い良好な結果を得た。このことは恐らく⁷周囲の口腔内環境改善になり、プラークコントロールが容易かつ効果的に行なわれるようになったと思われる。

新 入 会 員 紹 介



1. 氏 名 岩 井 泰 介

2. 住 所

(自 宅) 熊本市九品寺 6 丁目 6-79-706 TEL 366-4732

(診療所) 熊本市水前寺 1 丁目 17-32 石本ビル 2 F TEL 384-0020

3. 生年月日 昭和 33 年 1 月 21 日

4. 趣 味 スキー

5. 好きな言葉 信頼

6. 経 歴

S 51 年 3 月 熊本県立人吉高等学校卒業

S 58 年 3 月 広島大学歯学部卒業

S 58 年 4 月 広島大学研究生 (歯学部小児歯科学講座) 入学

S 58 年 7 月 広島大学歯学部小児歯科学講座医員採用

S 59 年 1 月 広島大学助手 (歯学部附属病院・小児歯科) 採用

H 2 年 4 月 同 辞職

7. 家族構成

妻 : 真理子 (S 32. 12. 1 生)

長男 : 宏平 (S 61. 9. 22 生)

二男 : 裕和 (H 1. 6. 16 生)



1. 氏 名 西 濱 亮 介

2. 住 所

(自 宅) 熊本市水前寺 5-6-17 パークハウス水前寺 101 TEL 383-7781

(診療所) 熊本市水前寺 8-1 TEL 381-8241

3. 生年月日 昭和 32 年 1 月 6 日

4. 趣 味 テニス・スキー

5. 好きな言葉 忍耐

6. 経 歴

S 50 年 3 月 熊本県立第 2 高等学校卒業

S 52 年 4 月 昭和大学歯科部入学

S 58 年 3 月 昭和大学歯学部卒業

S 58 年 4 月 昭和大学大学院歯学研究科入学

S 62 年 3 月 昭和大学大学院歯学研究科卒業

S 62 年 4 月 昭和大学歯科病院第 1 保存学教室入局 (助手)

S 63 年 4 月 同上 (講師)

H 1 年 3 月 同上退職

H 1 年 4 月 服部歯科医院勤務 (横浜市)

H 2 年 3 月 同上退職

7. 家族構成

妻 : 貴子 (S 37. 8. 8 生)

長女 : 明希 (H 2. 3. 9 生)

母 : 桂子 (S 5. 12. 8 生)

祖母 : 静江 (M 38. 9. 6 生)

〈お 知 ら せ〉

学校歯科委員会

学校医謝礼金が増額されましたのでお知らせ致します。

平成2年度学校医謝礼金年額改定基本額

単価：円（第2位切り上げ）

児童(生徒)数区分	H元年度単価	H2年度単価	引上額	引上率
0～ 200	166400	171600	5200	3.13%
201～ 400	168800	174100	5300	3.14%
401～ 600	171200	176500	5300	3.10%
601～ 800	173500	178900	5400	3.11%
801～1000	175400	180900	5500	3.14%
1001～1200	177100	182600	5500	3.11%
1201～1400	178800	184400	5600	3.13%
1401～1600	180600	186200	5600	3.10%
1601～1800	182400	188100	5700	3.13%
1800～	184200	189900	5700	3.10%

会 務 報 告

理 事 会

月 日	協 議 題
4月18日	第23回理事会（総務・庶務・会計・委員会報告・協議・その他）
5月16日	第24回理事会（ " ）
6月20日	第25回理事会（ " ）

社 保 委 員 会

月 日	協 議 題
4月4日	歯科点数改正について 審査申合せ事項について 4月8日の鹿児島市歯科医師会合同委員会の協議題について
4月8日	鹿児島市歯科医師会と合同委員会
5月9日	レセプトとカルテの記入について
6月6日	寝たきり老人在宅療養症例検討 チェックバイトについて 社保に対する質問について
7月4日	郡市社保担当者会議の報告 指導（老人、衛生、P等）の内容について

医療管理委員会

月 日	協 議 題
4月17日	スタッフ研修セミナーについて検討 医療廃棄物処理について
5月18日	スタッフ研修セミナー日程講師決定 医療廃棄物業者選択 非会員に対する勧誘文作製
5月25日	医療廃棄物処理について検討 スタッフ研修セミナーについて
6月8日	医療廃棄物業者選択会員に対する紹介
6月13日	医療廃棄物適正処理についての業者紹介案内文会員配布について 医療廃棄物適正処理について 熊本市清掃管理説明会について
6月16日	スタッフ研修セミナー
7月11日	熊本市医療廃棄物の処理に関する説明会 市歯科医師会入会勧誘方法について 支部地区割について（北部2）

学校歯科委員会

月 日	協 議 題
4月27日	学校歯科医の1000人以上2人制導入について
5月23日	ビデオ、映画、スライド等の貸し出しについて
6月27日	ビデオ、映画等貸出し状況について 第40回全国学校保健研究大会（沖縄）について 第40回学校歯科医協議会（沖縄）について

厚生委員会

月 日	協 議 題
4月24日	第14回熊本市歯科医師会バレーボール大会 日時決定する
5月22日	バレーボール大会の打合わせ
5月30日	バレーボール大会協力委員との話し合い
6月19日	バレーボール大会の最終打合わせ

広 報 委 員 会

月 日	協 議 題
3月28日	“中岳” 69号編集 “かわら版” 4月号編集
4月10日	“中岳” 69号第一校正
4月17日	“中岳” 69号第二校正
4月25日	“かわら版” 5月号編集
5月1日	“かわら版” 5月号校正
5月25日	“中岳” 70号原稿依頼 “かわら版” 6月号編集
6月1日	“かわら版” 6月号第一校正
6月26日	“かわら版” 7月号編集 ロッカー整理
7月3日	“かわら版” 7月号校正
7月18日	“中岳” 70号編集

口 腔 衛 生 委 員 会

月 日	協 議 題
4月11日	よい歯のコンクールの打合わせ訪問看護研究委員会 在宅老人往診可能な先生のアンケート
5月25日	第31回母と子の良い歯のコンクール審査の打合わせ
6月22日	母と子の良い歯のコンクールの打上げ
7月5日	母と子の良い歯のコンクールの反省会

学 術 委 員 会

月 日	協 議 題
4月9日	今年度ビデオ研修のタイトル 「サンアントニオ市からの2教授を迎える会」について 今年度学術講演会その他の企画の日程決め
5月10日	6月29日 Dr.Storey, Dr.Rugh 講演会の運営及び会員へのアピールについて 講演内容、レセプションの形式及び運営について
5月31日	Dr.Storey, Dr.Rugh 講演会、レセプションについて
6月25日	Dr.Storey, Dr.Rugh 講演会、レセプションについて ライラ・カックル、サンアントニオ市長への返礼の検討 サンアントニオ歯科医師会会長 Dr.Tiez への返礼の検討

臨 時 委 員 会

月 日	協 議 題
5月11日	第2回訪問歯科診療実施臨時委員会
6月12日	第3回熊本市訪問歯科診療実施について

編 集 後 記

陽性だった今年の梅雨も明け、ガラガラと全く暑い日が続いています。7月2日の大雨は、水害など比較的考えられなかつ阿蘇地方に大きな災害をもたらし、あらためて自然の恐しさを痛感させられました。

去る7月11日熊本市保健衛生局により、医療廃棄物処理に関する説明会が開かれました。また厚生省より「医療廃棄物処理ガイドライン」が示めされています。今後さらに問題視されてくるでしょう。先生方は各自の医院の医療廃棄物に関して再点検し、十分な対応が必要ではないでしょうか。

熊本市歯科医師会会誌

第 70 号

発行日 平成2年8月25日発行

発行所 社団法人熊本市歯科医師会

熊本市坪井2丁目3番6号

TEL (343) 6669

FAX (344) 9778

発 行 中 根 俊 吾
責任者

印刷所 株式会社白瀬

熊本市水道町13番14号

TEL (356) 3593